

2025年12月18日

地域プロモーションアワード2025 決定！

大賞は 長崎県【パンフレット】 愛媛県松山市【動画】

一般財団法人地域活性化センターでは、地域の魅力を国内外に発信する広報 PR 活動の一助とするために、地域プロモーション事業の推進を行っています。その一環として、優れたパンフレットや動画を表彰する「地域プロモーションアワード」を実施しています。

この度、「地域プロモーションアワード 2025」の各賞が決定しましたので、下記のとおり発表いたします。

なお、大賞受賞団体の表彰式を2026年1月19日（月）にWASEDA NEO（COREDO 日本橋5階）にて開催いたします。

記

1. 受賞作品

ふるさとパンフレット大賞（第13回） 応募数：90点 受賞作品数：7点

- 大賞 長崎県
「ONE ANSWER「ようこそ長崎のミュージアムへ」
- 優秀賞 長崎県東彼杵町
「茶鯨」
- 南伸坊賞 兵庫県淡路市
「Awaji City Healing Travel Guide」
- 楓千里賞 茨城県古河市
「古河 no トリセツ」
- パクン賞 福岡県福智町
「上野焼おいしいうつわ」
- マクン賞 鹿児島県南九州市
「茶本」
- 地域活性化センター賞 北海道東川町
「東川町 「写真の町」40周年誌 ちいさな町の、おおきな歩み」

ふるさと動画大賞（第7回） 応募数：153点 受賞作品数：8点

- 大賞 愛媛県松山市
「「幸せになろう。」松山市PR動画8編」
- 優秀賞 東京都御蔵島村
「意味がある島。みくら島。コンセプトムービー」
- 箭内道彦賞 福岡県八女市
「【八女の人に聞きました！】「あなたのまちの好きなところは？」」
- 秋吉久美子賞 新潟県
「NIIGATA Culture Tourism ニイガタ カルチャー ツーリズム Episode4 - 新発田・村上エリア -」
- 木川剛志賞 大阪府堺市
「3rd Destination 堺 - 日本らしさを、自分らしく味わおう -」
- 戸高良彦賞 青森県十和田市
「「にんにくのキモチ」
- 谷中修吾賞 神奈川県小田原市
「第61回小田原北條五代祭り」
- 地域活性化センター賞 佐賀県
「“SAGA ジモト青春ソング” FIND YOU」

お問い合わせ先
一般財団法人 地域活性化センター
情報・広報プロモーション課 担当：岩城・新城・三村
TEL：03-5202-6137 E-mail：kouhou@jcrd.jp

地域プロモーションアワード2025



第13回 ふるさとパンフレット大賞



審査結果

開催趣旨

地域活性化センターでは、パンフレットによる地域情報発信を支援するために「地域プロモーションアワード」の一環として年に一度「ふるさとパンフレット大賞」を開催し、全国各地の趣向を凝らしたパンフレットを募集、表彰している。

応募作品数

応募作品：90作品 受賞作品：7作品

審査委員



審査委員長
イラストレーター
南 伸坊氏



審査委員
國學院大學
観光まちづくり学部
教授 楓 千里氏



審査委員
お笑いコンビ
パッケンマッケン
パッケン氏

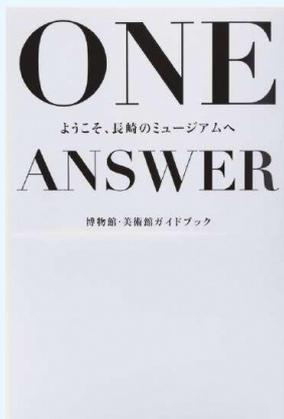


審査委員
お笑いコンビ
パッケンマッケン
マッケン氏



審査委員
一般財団法人
地域活性化センター
常務理事
大西 達也

受賞作品

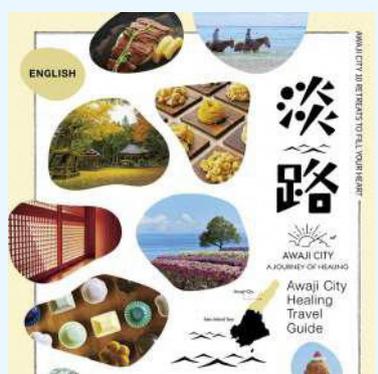


大賞 / 長崎県

ONE ANSWER 「ようこそ長崎のミュージアムへ」



優秀賞 / 長崎県東彼杵町
茶鯨



南伸坊賞 / 兵庫県淡路市
Awaji City Healing Travel Guide



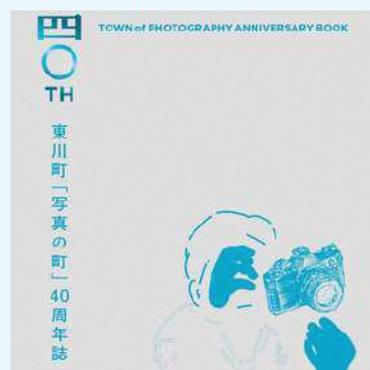
楓千里賞 / 茨城県古河市
古河 no トリセツ



パッケン賞 / 福岡県福智町
上野焼おいしいうつわ



マッケン賞 / 鹿児島県南九州市
茶本



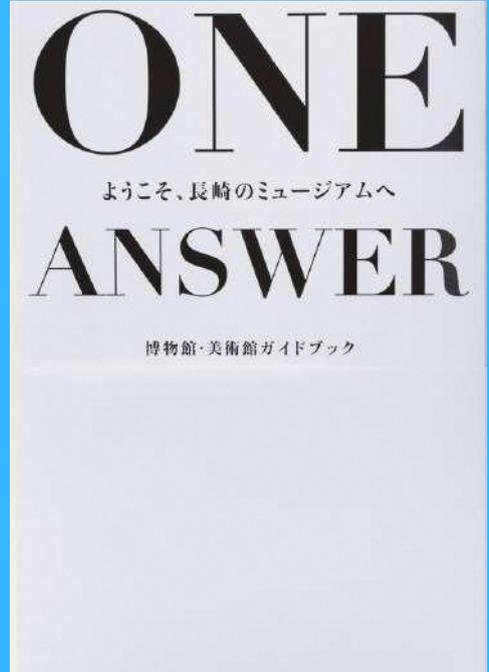
地域活性化センター賞
/ 北海道東川町
東川町「写真の町」40周年誌
ちいさな町のおおきな歩み



大賞

長崎県

ONE ANSWER
「ようこそ長崎のミュージアムへ」



審査委員コメント

・「ONE ANSWER ようこそ長崎のミュージアムへ」は、パンフレットというには、内容もレイアウトもビジュアルも、すべて素晴らしい仕上がりで、断トツに抜きんできていましたから大賞に推すしかない、と思っていました。

・ずっしりと重厚な一冊は、間違いなく完全保存版です。統一された写真のトーンが、幾重にも積み重なる長崎の歴史の奥深さを感じさせてくれます。博物館・美術館の図録と一線を画すのが、各地への旅を誘う「営みに出会う旅」のページ。登場する皆さんのインタビューコメントは、地域への興味を湧き立たせてくださり、博物館・美術館の所蔵品への関心も高まります。長崎にお住いの皆さまの、一家に一冊の必読書ではないでしょうか

・海外交流と信仰の歴史が織りなす多様な文化を擁する長崎。異文化に出会えるまちを、このガイドブックを手にしなが、無数の宝が残る博物館・美術館を巡ってみる。宝の一つひとつが放つヒカを手掛かりに、隠れキリシタンの営みが残る集落や、人々の祈りとともに受け継がれた心に触れたなら、貴方はどんな「ONE ANSWER (ひとつの答え)」にたどり着けるのだろうか。長崎での新たな旅のカタチを教えてください。一冊である。



受賞団体コメント

この度は「大賞」という素晴らしい賞をいただき、誠にありがとうございます。

長崎には他に類を見ない多彩な海外交流史があります。今回「海外交流史による学びと感動」をテーマに、ミュージアムを起点に地域を周遊するという新しい旅の提案を美しいビジュアルと印象深い文章で描き出し、長崎の歴史文化と旅行者自身の経験が交差し、新たな気づき自分なりの長崎を探る旅のベストガイドを目指し製作しました。

ミュージアムの魅力をしっかりと描き出し、ミュージアムの展示と関連する地域のエリアガイドを設け、そこで暮らす人の息遣いを感じ、実際に足を運んで頂き、より印象深い体験にさせていただきたいと考えました。

より多くの方々に発信し、手に取っていただくことで、旅人が行き先を迷ったときに導き、長崎の海外交流史というストーリーの中で「ONE ANSWER、自分の長崎を探る」というように、歴史文化が交差してきた長崎で、無数にある宝と宝を繋いでいくような旅を繰りかえしていただきたいと思います。

文化観光推進事業に携ってくださった皆様、地域の皆様のご支援、ご協力があったからこそこの受賞と深く感謝申し上げます。宝箱を開けるような長崎の旅へぜひお出かけください。

優秀賞

長崎県東彼杵町

茶鯨



審査委員コメント

・「茶鯨」とは茶色い鯨なのだろうか、といった疑問も持ちながらページを進めると、鯨が潮を吹いている姿が、茶柱が立っているように見えるので、茶鯨と呼ぶとあり、その独創的な発想に感服いたしました。一面に広がる茶畑の先の彼杵港は、かつて鯨肉の中継基地として栄え、現在でもこの地域に鯨の食文化が受け継がれている様子が、誌面から伝わってきます。

後半のグラビアページに登場するのは、ご婦人方（男性は登場せず）と小学生の皆さん。明るい笑い声と波の音が聞こえて来て、皆さんに会いに行きたくくなります。

・お茶とクジラ？ どういうこと？ でも中身を見ると東彼杵町とお茶、東彼杵と鯨の関係性が分かり、町の人がお茶と鯨を大事に（愛）しているのが伝わってきます。パンフレット全体の構成がほのぼのとして読むとリラックスする一冊ですね。

・潮のかわりにお茶を吹き出す鯨！ その名も「茶鯨」。町の歴史を知らない人にとっては意味不明……。しかも、観光ガイドブックなのに、名所や地図（しかも、かなりアバウト）は見開き1ページのみ。でも、読み進めば「お茶」と「鯨」への一方ならぬ思いは伝わってくる。冊子の大半は、町のあちこちで童心に帰って戯れる住民の皆さんの姿があふれる写真集？ やっぱり意味不明……。でも、なぜか行ってみたくなる不思議な魅力がある。



受賞団体コメント

この度は「優秀賞」という大変光栄な賞を賜り、心より感謝申し上げます。東彼杵町の観光冊子「茶鯨」は、まちの“ありのまま”を丁寧に写しとることを大切にし、地域商社・観光協会・役場が一体となって制作した、私たちにとって新しい形のパンフレットです。著作権を町に帰属させ、関係者の意見を反映しながら増刷のたびに改良を重ねられる仕組みとしたことで、「完成が終わりではなく、育て続けるパンフレット」を実現することができました。

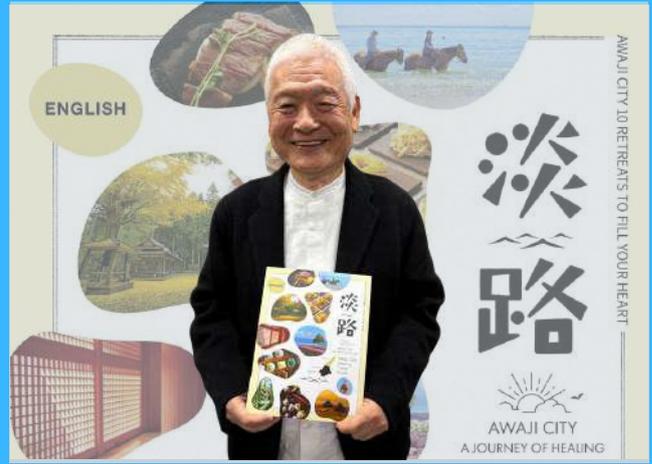
撮影には婦人会、学童保育、食生活改善推進員、農業委員など多くの町民の皆さまにご協力いただき、背伸びしすぎない等身大の東彼杵町の姿が詰まった一冊となりました。日々の暮らしの中こそ、この町ならではの魅力が息づいていることを、手に取ってくださる方々に感じていただければ幸いです。

制作に携わってくださった皆さま、そしてこの冊子を評価してくださった審査員の皆さまに深く感謝申し上げます。今回の受賞を励みに、「茶鯨」をこれからも進化させ、まちの魅力をより豊かに伝えてまいります。誠にありがとうございました。

南伸坊賞

兵庫県淡路市

Awaji City
Healing Travel
Guide



審査委員長コメント

少しずつ惜しい！写真がそれぞれ魅力ある素材を、沢山撮っているのに、そしてそれを使っているのに、その大小や、レイアウトで魅力を生かしきれていない。全体的に悪くないんです。でも写真がこんなにいいのに、その扱いが惜しい！きっとよさがわかっているから、どれも使いたい。どれも捨てられなかったのじゃないか。

それが、パンフレットの顔、表紙にモロに露呈しています。表紙に何を持ってきて、何を捨てるか？そこが腕の見せ所、頑張って！



受賞団体コメント

淡路市は、兵庫県の南部に位置し、神戸から明石海峡大橋を渡ってすぐの場所にある淡路島の北の玄関口です。京阪神からのアクセスに優れ、となりにあるリゾート地「となりリゾート。淡路市」をコンセプトに年間900万人以上の観光客が訪れるリゾート観光地として人気を博しています。

今回、南伸坊賞をいただいた「Awaji City Healing Travel Guide」は、夜神楽や馬と海泳ぎなどの10のリトリートをテーマとする淡路市観光ガイドブック「淡路市癒しの旅案内」を英語に翻訳したものです。翻訳にあたり、旅行に関心の高い在日外国人の目線で確認してもらい、訪日外国人の方に現地の空気感が伝わるような精度の高さを意識しました。単にガイドブックとして活用するだけではなく、現在では「Awaji City Healing Travel Guide」の掲載スポットをインバウンド向けのツアー商品として造成する取組も行っています。

阪神・淡路大震災から30年となる今年、淡路市は市制20周年を迎え、関西では2025大阪・関西万博が開催されました。このような節目の年に、大変光栄な賞をいただき、誠にありがとうございます。

楓千里賞

茨城県古河市

古河noトリセツ



審査委員コメント

「ちょ〜どイイまち」のコンセプトで、古河をコンパクトかつ濃密に紹介している一冊。8ページ目までは、まちの暮らしから医療・教育の今を、親しみのあるイラストを上手く使用し、数字で分かりやすく紹介しています。11〜22ページからは、「きゅんするお・み・せ」「こがキラ男子焚火トーク」「こが“あるある”」「古河のイチ推しメシランキング」「難読地名ランキング」「古河の方言」と、完全に振り切った市役所の匂いがしない誌面に、クスッとしながら引き込まれました。市役所も制作した皆さまもあっぱれです。

古河で暮らす楽しさ、豊かさが優しく伝わり、ゆったりとした気持ちで読み進めることができる貴重なパンフレットです。

受賞団体コメント

古河市は人口約14万人、関東平野のドマンナカにあって、茨城県の西端に位置しています。

街は起伏が少ない地形で、JR宇都宮線の駅があり、お隣の埼玉や栃木とのつながりが強く、どこにでも行きやすい街です。

古河noトリセツは街を知らない人には暮らしをイメージしやすく、知っている人はクスッと楽しく笑って見られる冊子です。

誌面には古河の暮らし、風景、お店、古河あるある、難読地名番付に方言などを掲載。これを読めば古河のリアルな雰囲気を感じていただけたと思います。

制作には古河に住む人・出身の人など本当にたくさんの“人”に関わっていただきました。お店の取材などは「こがキラphotoクラブ」の皆さん、表紙や誌面内のイラストは市出身のイラストレーターさん、誌面のデザインも地元のデザイナーさんに協力をいただきました。お店紹介の取材であちこち走り回ったのは昨日の日のことです。この場を借りまして、関係者の皆さまに深く感謝申し上げます。

この度は大変光栄な賞をいただき、関係者一同大変嬉しく感じております。これからも皆さんと共に街の魅力発信を続けてまいります。

パ ッ ク ン 賞

福 岡 県 福 智 町

上 野 焼 お い し い う つ わ



審 査 委 員 コ メ ン ト

パッケン賞も相当質の高い作品。大きくて綺麗な写真で主人公の焼き物が輝いていますが、同時に、「共演」の食べ物が素晴らしいパフォーマンスを見せています。紙面から飛び出しそうな存在感で、べらべらめくっているだけで上野焼へ興味が湧き、お腹も空いて、今すぐ福智山のふもとを探索してみたくくなります！

受 賞 団 体 コ メ ン ト

来年3月に福智町が誕生して20周年を迎えます。この節目の年にこのような榮譽ある賞をいただき、誠にありがとうございます。

器そのものが料理を引き立て、手に取る人の日常をより豊かにする――

茶陶をルーツとする上野焼（あがのやき）が420年以上の長い歴史の中で、その技と精神をはぐくんできました。現在上野焼は、ライフスタイルの変化や安価な輸入品の増加などの影響により需要の低迷や後継者不足など厳しい課題に直面しています。

今回、「食を彩る器」としての上野焼の新たな魅力を多くの方に知ってもらい、これらの課題解決の一助となればとの思いを込めパンフレットを作成しました。

今回の受賞は、上野焼窯元をはじめ、飲食店の方々など、多くの関係者の皆様の深いご理解とご協力があったからこそ実現したものと、深く感謝しています。この榮譽ある賞を大きな励みとし、これからも福智町や上野焼の魅力を国内はもとより、世界中のみなさまに届けられるよう、積極的な魅力発信に努めてまいります。ぜひ、一度、歴史と伝統が息づく福智町に遊びに来てください！

マツクン賞

鹿児島県南九州市

茶本



審査委員コメント

パンフレットを手にとった時に、茶葉を触った様な紙の質感に驚きました。そして、お茶の美しい色を全面に強調していて、見ているだけで、ここのお茶を飲んでみたいくなる！そんな一冊です。もちろん現地にも行ってみたいけど、まず、ここのお茶を近所のお茶屋さんで探してみたいな～と思いました。

受賞団体コメント

この度は大変光栄な賞をいただき、誠にありがとうございます。

南九州市は鹿児島県の南端に位置し、市町村合併を経て、お茶の質・量ともに日本最大級の産地に成長しました。しかし、全国的な認知度は高くないため、「知覧茶」の魅力をもっと多くの人に伝えたいという想いで、「茶本」を制作しました。

本パンフレットでは、南九州市の広大な茶畑が織りなす美しい景観を、年間を通じて表現しています。「知覧茶=美しい」「美しさは、美味しさ」というブランドイメージを伝えるため、写真を活用して視覚的に訴えることを重視しました。お茶づくりにかかる手間や季節ごとの変化を感じてもらえる構成とし、知覧茶をより深く理解できるように工夫しています。

また、お茶の歴史や効能、知覧茶の味わいのヒミツや美味しい飲み方、南九州市のお茶文化など、イラストを使い分かりやすく紹介しています。お茶が日本人の生活に深く根付いていることや知覧茶が地域で大切に育まれてきたことを感じていただけたらと思います。

制作にご協力いただいた皆様に感謝するとともに、この受賞を機に、より多くの方々が南九州市を訪れ、知覧茶を味わい、魅力を知っていただくきっかけになれば幸いです。

地域活性化 センター賞

北海道東川町

東川町 「写真の町」40周年誌
ちいさな町の、おおきな歩み

40TH TOWN of PHOTOGRAPHY ANNIVERSARY BOOK

東川町「写真の町」



審査委員コメント

今や東川町のまちづくりの“根っこ”となった「写真の町」。その記念誌だから「過去の受賞作品を集めたPHOTO BOOKでは？」といった安易な予想は完全に裏切られた。

「写真の町」誕生から40年。取組みを長年支えてきた町の人々の歩みと、過去の審査委員、受賞者、参加者を漏れなく書き残すことで、「写真の町」に関わったすべての人々が積み重ねた価値とその想いを、将来の町の担い手へとつないでくれる“小さな大作”である。

受賞団体コメント

このたびは、この冊子に評価をいただき、心より感謝申し上げます。

北海道の中央に位置する小さな町、東川町が「写真の町」を宣言してから40年という節目に制作した冊子です。人口8,700人ながら、30年間人口が少しずつ増え続け、現在は「地方創生の成功例」としても注目される東川町ですが、その根幹にはこの「写真の町」が重要な役割を担ってきました。冊子では、「そもそも何故写真の町なのか？」「町にとってどういう意味・価値があるのか」などを、「写真」そのものに興味がない方や町民でも読みやすい形で届ける工夫をしながら、文化での町づくりがどういう意味や価値を持つのかを見つめ直した1冊です。東川町の「文化での町づくり」の実践には、歴史の積み重ね方や町民と行政の関係性の中に、他の自治体にも活かせる多くのヒントがあるはずだと信じています。

この度、制作に関わってくださった多くの方々にも感謝申し上げます。今回の受賞を通じて、東川町と「写真の町」が多くのの方々へ伝わる機会となることを期待しています。今回の受賞を励みに、これからも地域に根ざした文化の価値を見つめ続けていきたいと思っております。

地域プロモーションアワード2025

第7回

ふるさと動画大賞

審査結果



開催趣旨

地域活性化センターでは、ふるさとの魅力を発信する動画コンテンツによる地域情報発信を支援するために「地域プロモーションアワード」の一環として年に一度「ふるさと動画大賞」を開催し、全国各地の創意工夫に満ちた動画コンテンツを募集、表彰している。

応募作品数

受賞

8 作品

応募

153 作品

審査委員

審査委員長

クリエイティブディレクター
東京藝術大学美術学部デザイン科 教授

箭内 道彦氏



審査委員

女優

秋吉 久美子氏



審査委員

和歌山大学
観光学部 教授

木川 剛志氏



審査委員

株式会社マガジンハウス
取締役 クロスメディア事業局
新規事業開発局

戸高 良彦氏



審査委員

BBT大学大学院MBA教授
一般社団法人INSPIRE
代表理事

谷中 修吾氏



審査委員

一般財団法人地域活性化センター
常務理事

大西 達也



受賞作品



大賞



愛媛県松山市 「幸せになろう。」松山市PR動画8編

優秀賞



東京都御蔵島村 意味がある島。みくら島。コンセプトムービー

箭内道彦賞



福岡県八女市

【八女の人に聞きました！】
「あなたのまちの好きなところは？」

秋吉久美子賞



新潟県

NIIGATA Culture Tourism
ニイガタ カルチャー ツーリズム
Episode4 - 新発田・村上エリア -

木川剛志賞



大阪府堺市

3rd Destination 堺
- 日本らしさを、自分らしく味わおう -

戸高良彦賞



青森県十和田市

にんにくのキモチ

谷中修吾賞



神奈川県小田原市

第61回小田原北條五代祭り

地域活性化センター賞



佐賀県

“SAGAジモト青春ソング” FIND YOU

総 評



審査委員 秋吉久美子氏

今回は軽やかな地域アピールが多かった気がします。インバウンドに対しての演出や移住を推進するものがやや弱まったのではないのでしょうか。その中で映像の奥行きや美しさ、編集のキレ等で地域の魅力を押し出したものを今回の選出の基準とさせていただきました。

審査委員 谷中修吾氏

SNSに多種多様な動画が溢れる時代において、動画による地域プロモーションには、より明確な戦略が求められるようになりつつあります。動画のターゲットや訴求価値を定義した上で、どのような効果を狙うのか。受賞した自治体様は、総じて、基礎的な動画マーケティング戦略について思考を通して感じました。動画の制作と展開には、それなりの工数を要します。効果を最大化するためにも、マーケティング戦略の立案は重要です。



審査委員 戸高良彦氏

今回の地域プロモーション動画は、自治体それぞれのアプローチ（狙い）がはっきり表現されていて、バラエティに富んだ作品が揃いました。それは各自の課題をしっかりと把握している結果だと思います。新潟県はお馴染みの真っ直ぐな大作、堺市は淡々とした佳作ですが、松山市、十和田市、八女市はリズム感で繋ぐショートショート作。小さな課題を数で展開することによって記憶に残る、今いまのSNS成功法則に通じる作風になっていると思います。



大賞

愛媛県松山市

「幸せになろう。」
松山市PR動画8編

動画はこちらから→



幸せになろう。
松山市
MATSUYAMA CITY



審査委員長コメント

「幸せになろう。」とても素敵なスローガンですね。地域プロモーションは「世界中でその土地にしか言えないこと」を発信しなければいけないと考えてしまいがちですが、「どこでも言えること」だけ「まだ誰も言っていないこと」「誰かがすでに言っている、自分たちも言いたいこと、言うべきこと」を堂々と言う、そんな形も有効なのです。

短い尺で、楽しく、あたたかく、そしてフォーマットに捉われることなく届ける形を選択した松山市。素晴らしいです。

受賞団体コメント

(愛媛県松山市 総合政策部 シティプロモーション推進課)

このたびは、「大賞」という荣誉ある賞を頂き、心から感謝申し上げます。

松山市は、愛媛県のほぼ中央に位置し、日本最古といわれる道後温泉や、国内に12しかない江戸時代以前に建造された天守を持つ松山城など、歴史・文化に溢れるまちです。市の内外から選ばれるまちの実現に向けて、新ブランドスローガン「幸せになろう。」のもと、市民や企業、大学などと一緒に「幸せといえば松山」と誇れるまちを目指しています。

新スローガンを多くの人に知ってもらうため、PR動画を制作しました。市内各所で撮影された動画には、松山市民が出演。市民のほほ笑ましい映像を数多く届けたいとの思いから、全10種類制作し、CMとしても活用できるように1本あたりは15秒。どの映像も思わずクスッとなる展開にしています。最後は、思わず口ずさみたくなる「幸せになろう。」のメロディーとブランドロゴで必ず締めくくり、耳にも残る作品に仕上げています。

この映像を通じて、一人でも多くの方が幸せな気持ちになり、松山市に関心を持っていただければ幸いです。今回の受賞で、本市として大きな「幸せ」を頂きました。本当にありがとうございました。

優秀賞

東京都御蔵島村

意味がある島。みくら島。
コンセプトムービー

動画はこちらから→



審査委員コメント

・人口300人の離島「みくら島」の映像も心に沁みるものでした。「東京」が持つイメージ、それに取まらない東京の島。これは今の日本中の島のあり方についても考えるきっかけとなる映像でした。

・作品のなかで繰り返されるフレーズ「東京だけど、〇〇があります。」は、都心に暮らす私たちが、知らず知らずのうちに失いつつある大事なモノの価値を問いかけてくる。

受賞団体コメント (東京都御蔵島村 村長)

東京都内・首都圏でせわしない日々を過ごす、そんな人たちをターゲットの中心に据え、「経済合理性にしたがう生き方ではなく、自分の価値観にしたがう生き方」「その地域に住む意味、その地域で生きる意味」をテーマに制作しました。自分の価値観にしたがって生きる御蔵島の人たちの価値観は、「自分らしく生きる」というこれからの時代に大切にされる価値観において、日本の最先端を走っている地域なんじゃないか。そう思うのです。

結果的に、このムービーを見て移住にまでつながらなかったとしても、御蔵島の人たちの生き方や価値観に共感し、「自分にできることで何か応援しよう」という「応援人口」の創出ができればと考えています。また、「ブランドムービー」として島内の方も含めたすべての方々に、御蔵島の「アイデンティティ」を伝える目的もあります。

一定期間、YouTubeのインストリーム広告を配信。結果は、広告表示回数：13万8000回に対し、広告視聴回数：6万9100回（視聴率：50.19%）という結果となりました。スキップ可能なインストリーム広告の平均的な視聴率は15%ほどと言われており、半分以上の方がスキップせずに30秒以上視聴したという驚異的な数字となりました。これは、御蔵島に共感する人が都内にもたくさんいる、ということの証明になったのではないのでしょうか。

箭内道彦賞

福岡県八女市

【八女の人に聞きました！】
「あなたのまちの好きなところは？」

動画はこちらから→



審査委員長コメント

「言霊（ことだま）」と同じように、「文字霊（もじだま）」ってありますね。それぞれが思うことを改めて文字にすることで、これまで気づかなかった自分の思いに気づけたり、より強くそう思うようになったり。表情と文字の強さと笑顔から、ひとりひとりの声が聞こえて来ます。ポスカが極太なのもいいですね。そして何よりこの動画は「あなたのまちの好きなところは？」と最後にこちらに問いかけて来るところがとても素晴らしかった。

受賞団体コメント (福岡県八女市 企画部定住対策課)

この度は「箭内道彦賞」を賜り、誠にありがとうございます。関係者一同大変喜んでおります。

八女市PR動画制作にあたって故郷八女の良いところをメンバーで考えました。「自然」「文化」「歴史」「人」「食・地酒」など、『八女のロマン』という移住定住テーマがあるくらい八女は魅力的な資源で溢れています。

それを私たちでは紹介しきれないので、51名の八女市民や八女に関わる人に直接出演し紹介してもらいました。51名のそれぞれの表情からも、この地域への愛着を感じる作品になっているのではないかと思います。

そして、他の地域でも多分同じ。各地域にそれぞれかけがえのない魅力がたくさんあると思います。「住めば都」。自分の町が一番素晴らしいとはそこに住む人が誰しも思っていることだと思います。

資源や人のパイの奪い合いではなく、共有しあえば日本全国豊かになるのではと思い、最後に「あなたのまちの良いところは？」と問いかけました。

それぞれの魅力に気づけば、それぞれが豊かになるという未来を思い描いた作品です。多くの方にPR動画をご覧いただき、八女市へ訪れていただけたらと思います。

秋吉久美子賞

新潟県

NIIGATA Culture Tourism
ニイガタ カルチャー ツーリズム
Episode4 - 新発田・村上エリア



動画はこちらから→



審査委員コメント

見果てぬ土地「新潟」の浪漫がヒタヒタと伝わってくる。
心を込めて技をかけた作品。新潟クラフトが丁寧に描かれ、見るものの目を惹きつける。優雅であり艶やかである。文化とは喧騒ではないと受け止めた。
新潟の生活や歴史が美しく描かれている。しみじみと情感を感じる良い作品だった。

受賞団体コメント

(新潟県 観光文化スポーツ部文化課)

【豊かさを体感する旅へ。】
新潟県では、伝統芸能・食・文化財などその地域に根付く文化を体感する観光（文化観光）を「NIIGATA Culture Tourism（ニイガタ カルチャー ツーリズム）」と名付け、文化観光を通じて“豊かさを体感する”、新たな旅の提案をしています。

なかでも新発田・村上エリアは新潟県の最北部に位置し、かつての城下町の面影をいまに残す地域です。城跡や武家屋敷、町家が軒を連ねる町並みには、歴史と文化が息づいており、冬になると軒先に吊るされる鮭の塩引きや、雪国ならではのやわらかな甘みをもつ村上茶など、独自の食文化も根付いています。また、庭園や伝統工芸、祭りなどの魅力にもあふれ、歴史と現在が交錯する風景がひろがります。

動画では、ツーリストが文化体験を通じて“心が満たされる瞬間”を繊細に描写。この地域ならではの時の流れや、人々の温かさが伝わる内容となっています。

また、今回「秋吉久美子賞」をいただいた新潟・新発田エリアを含む県内5エリアの文化観光に関する動画を公開しています。一昨年、昨年に続き3年連続で賞をいただけたことをきっかけに、さらに多くの方に動画をご覧いただき、実際に文化の魅力を感じ取るため、新潟県へお越しいただきたいと願っています。

木川剛志賞

大阪府堺市

3rd Destination 堺
-日本らしさを、自分らしく味わおう-

動画はこちらから→



審査委員コメント

日本中に、まだまだ知られていない素敵な観光地は多くあります。しかし、多くの観光客の足跡がはっきりと残る京都や奈良のような観光地と違って、「これからの観光地」には明確なイメージが定まっていないのが現状です。

イメージがなければ選ばれにくい。「3rd Destination 堺」は、臙げな街に明確なイメージを構築することに成功しています。「だからこそ」で堺を訪れる人々を誘う、秀逸な観光映像です。

受賞団体コメント (大阪府堺市 広域連携課)

この度は栄えある「木川剛志賞」を賜り、心より御礼申し上げます。

堺市は、大阪唯一の世界遺産である百舌鳥古墳群をはじめ、由緒ある寺社や歴史的な街並み、茶の湯の文化や堺打刃物、注染・和晒等といった伝統産業が息づく都市です。関西国際空港や新大阪駅といった関西のゲートウェイから約30分で到着するアクセスの良さも魅力で、日本らしい体験を自分のペースでゆったりとお楽しみいただけます。

本作品は「日本らしさを自分らしく楽しむ」というコンセプトのもと、大阪・関西万博を契機に茶の湯文化、堺打刃物、日本庭園等の堺の類いまれな歴史・文化の魅力を、印象的な映像美で世界中の方々に伝えたいという思いを込めて制作しました。特に、視聴者へコンセプトをより分かりやすく伝えるため、観光で訪れた主人公を同行者が撮影しているというホームビデオのような構成とし、ゆったり楽しめる堺の雰囲気を感じていただける映像にこだわりました。

本作品をきっかけに、ぜひ堺を訪れ、歴史と文化が息づく都市の魅力を味わっていただければ幸いです。皆さまのお越しを心よりお待ちしております。

戸高良彦賞

青森県十和田市

にんにくのキモチ



動画はこちらから→



審査委員コメント

十和田市「にんにくのキモチ」は映像、セリフ、表情、効果音、BGMなど全ての要素がバランス良く整った名作です。コンビによる緩いボケとツッコミの掛け合い漫才や、解説役と質問役で展開するYouTube番組のように、安定のスタイルが功を奏している。

「にんにく」に「十和田産」であることの誇りやブランド感を語らせながら、十和田市民としての「シティ・プライド」まで微かに伝わってくる。とにかく、立派な「十和田のにんにく」を食べたくなりました。

受賞団体コメント

(青森県十和田市 とわだ産品販売戦略課)

「奥入瀬溪流」「十和田湖」を有し、日本を代表する観光地の一つである青森県十和田市は、豊かな水と肥沃な大地で育まれる野菜の名産地でもあります。

その中でも特に、にんにくの作付面積は“日本一”を誇り、ミネラルたっぷりの土壌で育ったにんにくは大玉で肉厚、そして、雪のように白く、香り高い自慢の特産品であり、ふるさと納税返礼品においても、にんにくや黒にんにくは常にトップを独走し、非常に人気となっています。

今回、「にんにく王国 十和田市」をPRするため、当市で生まれ育ったインパクト抜群のにんにく2玉に主演を依頼、さらに、当市自慢の広大な畑で“日本一”を視覚的に表現しました。また、後編では、にんにくの就職先である中華料理屋にて撮影し、にんにくが様々な料理で活躍することをイメージしやすいように、色とりどりの料理を映し出し、主演の魅力を引き出しました。

この動画をきっかけに、「にんにく王国 十和田市」を全国の皆さまに知っていただき、そして、当市で生まれたにんにくたちを温かく迎え入れてくれるご家庭が増えていくことを楽しみにしています。

この度は十和田市産のにんにくをPRする機会をいただき、誠にありがとうございました。

谷中修吾賞

神奈川県小田原市

第61回小田原北條五代祭り

動画はこちらから→



審査委員コメント

地方自治体がショート動画を活用して地域プロモーションを展開することは、サステイナブルな情報発信の在り方として重要です。小田原市様の作品は、象徴的な短いカットをつなぎながら、小田原北條五代祭りの雰囲気や巧みに伝えていると思いました。

ショート動画素材を撮り溜めておくことにより、用途に応じた動画マーケティングが可能です。小田原市様が地方自治体の新しい地域プロモーションの在り方を切り開かれることを祈念いたします。

受賞団体コメント

(神奈川県小田原市 広報広聴室)

「第61回小田原北條五代祭り」の魅力とともに、地域の歴史や文化を広く発信することを目的として、市職員で制作（撮影・編集）をしました。また、多くの方がSNSで気軽に視聴や共有、保存などができるようにショート動画の形式で制作をし、YouTube（ショート）とInstagram（リール）で配信をしています。

このお祭りは、武者行列やパレードを中心とした市内最大のイベントであり、広範囲で同時刻に多様な催しが展開されています。そのため、一人で全てを撮影することは物理的に困難であることから、広報広聴室の職員が分散して計画的に撮影を行うことで、お祭りのスケール感や多彩な伝統文化を46秒間に凝縮することができました。

動画では、お祭りの熱気や臨場感を表現するため、縦の画面ならではの迫力のあるローアングルのカット、現地で響いた勢いを感じる音を採用するなど、テンポ良く切り替わる場面構成と合わせて工夫を凝らしました。武者隊目線での沿道の賑わいや、武者隊と沿道の重なる掛け声、お祭りの一体感にも注目です。

地域活性化センター賞

佐賀県

“SAGAジモト青春ソング”

FIND YOU

動画はこちらから→



審査委員コメント

誰もが一度は経験する切なく、かけがえない思春期。そんな時代に、学校生活に悩み、将来への不安を抱えながらも、高校生たちが見慣れているのにどこか懐かしい地元佐賀の風景のワンシーンを切り取って、友人や家族との等身大の日常を精一杯に演じている。

自らの出番であるスポットライトが当たるその一瞬に、無限のエネルギーを解き放っている若者たち。その躍動する姿からは、地域の将来を託せるたくましさ、一人ひとりの前に広がる明るい未来しか感じられない！

受賞団体コメント (佐賀県 政策部広報広聴課)

佐賀県内の若年層（主に高校生）向けに「佐賀県の魅力」に改めて気づく“きっかけ”づくりを目的にミュージックビデオを制作しました。

KBC九州朝日放送の番組「高校生のじかん」とタッグを組み、佐賀県内の高校生と一緒に楽曲を制作する「#SAGAジモト青春ソング」プロジェクトを実施。佐賀県内の全高校生2万人以上から募集した青春エピソードを元に、3人組ボーカルユニット『ベリーグッドマン』と共同制作しました。

「FIND YOU」のミュージックビデオ制作には、佐賀県内20校190人以上の高校生が参加し、ベリーグッドマンも佐賀県立致遠館高校音楽部のコーラス収録を監修。佐賀県で青春を送る高校生たちのイキイキとした表情、ダンスや部活に打ち込む姿、そして高校生たちが写真で切り取った佐賀の日常の風景が描かれています。